

地方 紀民 行鉄

山陽電気鉄道株式会社



太陽のご機嫌を伺いながら、瀬戸内海を望む景色を楽しみ、歴史的名所を訪ねる。曇ってきても大丈夫、沿線グルメが待っている。

陽射しに輝く白い城。白鷺に例えられる優美な姿の姫路城。平成の大改修工事からはや5年、時とともに白さは薄れていくと言われているけれど、まだまだ十分白くて奇麗。その優美なお城からまっすぐ伸びた大手前通りの先に、山陽電気鉄道「山陽姫路駅」はある。

沿線観光には特急が便利

山陽電気鉄道は、西代駅から山陽姫路駅をつなぐ本線と飾磨駅から山陽網干駅をつなぐ網干線から成る。本線だけでも54・7kmある長い路線に名所旧跡が点在。つまり、移動に結構時間がかかる。おまけに天気予報は晴れがち曇り。景色を楽しむ名所には雲が広がってくる前にたどり着きたい。姫路城を早々に後にして、山陽姫路駅に向かう。

山陽電気鉄道の本線には、西代駅から神戸高速線を経由して阪神電鉄本線に乗り入れ、阪神、阪急それぞれの神戸三宮駅まで行く普通電車とS特急、阪神大阪梅田駅まで行く直通特急などがある。一日乗車券も有効エリアによって種類が豊富。今回は「三宮・姫路1dayチケット」を購入し、直通特急に乗車。

停車駅の少ない直通特急は途中駅をほとんど飛ばす。住宅ばかりだった車窓の景色に海の気配が見え隠れし始め、山陽明石駅に停車した電車が再び動き出すと、大きな明石海峡大橋が目の前に現れる。電車は海沿いを走り始め、穏やかな明石の海が車窓に広がる。通過していく駅からの眺めも良さそうで「降りてみたい!」と思うけれど、ここは我慢。山

陽垂水駅で普通電車に乗り換えて、目的地、須磨浦公園駅に到着。

昭和の雰囲気景色を楽しむ

向かうのは改札を出てすぐ右手、須磨浦山遊園ロープウェイの乗車口。乗車券売り場では、係員さんが乗車券の説明をしてくれる。「ロープウェイからカーレーターに乗り継ぐと回転展望閣まで行けます」。

カーレーターとは「日本一乗り心地が悪い」と評判で、乗り心地の悪さを過度に保つように整備しているという謎の乗り物。お一人様で乗車するには、なかなかハードルが高い。回転展望閣には歩いても行けるというので、おとなしくロープウェイの乗車券のみ購入。定員30人のロープウェイを独り占めして約3分。ロープウェイを降り、カーレーターを横目に階段を上がって回転展望閣に向かう。

随分昔に聞いたような曲が流れる中にたたずむ回転展望閣は、「昭和」の雰囲気満点。中に入ると無人のゲームコーナーから明るい機械音が聞こえてきて、さらに「昭和」感が増す。タイムスリップした気分が階段を上ると、ガラス張りの円形屋内展望室兼喫茶室?に出る。

少し雲が広がってきたけれど、明石海峡大橋や神戸市内、大阪の方まで十分見渡せる。じつと景色を眺めていると自分がゆっくり右側に動いて行く。ここは「回転」展望台だった。回転に逆らって歩いてみたら、パソコンや資料を広げて仕事中の先客を発見。昨今、広がりつつあるノマドワーカーだろうか。平日昼

山陽電気鉄道

【さんようでんきてつどう】

本線・網干線を合わせると総延長は63.2km。神戸高速線を介して阪神、阪急それぞれの神戸三宮駅まで結ぶ。阪神電鉄との乗り入れでは、山陽姫路駅から阪神大阪梅田駅まで相互直通運転も行う。



(右) ロープウェイ乗り場も懐かしい雰囲気 (上) ゴンドラは紅白2台ある



白漆喰で塗られた白鷺城。月日がたつと、次第に黒みがかってくる



上/須磨寺には面白いものがいっぱい。狛犬ではなく…？
右/本堂は由緒正しい雰囲気



回転展望台は外観も「昭和」感満点。展望台からは、神戸から大阪の方まで見渡せる

間は静かで空いている。しかも視線を上げれば良い景色も見える。ノマドワーカーにとつて、ここは穴場スポットなのかもしれない。ぐるりと景色を楽しんで、再びロープウェイに乗車。ロープウェイの中では周辺の観光情報が流れ、駅近くの海岸線辺りが、源平の「二ノ谷の合戦」の場所であること、合戦で打たれた平敦盛の首塚が近くの須磨寺にあることなどを教えてくれる。須磨寺の最寄り駅は須磨寺駅。須磨寺駅には他にも見たい場所がある。さっそく須磨寺駅へ移動。

源氏に縁の二つのお寺

須磨寺駅から徒歩数分。須磨寺こと「上野山福祥寺」は、源平縁の古刹。重々しい雰囲気のお寺を想像していたら、何だか違う。由緒正しそうなお堂の近くに、狛犬というにはエスニックな顔立ちの像が置いてあったり、首塚の近くに、可愛い五猿の像があったり。境内には「何これ、何あれ」がいっぱい。何とも言えない面白さは、一見の価値あり。

「ああ面白かった」と須磨寺を出て、今度は「見たい」と思っていた場所へ。こちらも源氏に縁のお寺。ただし源氏は源氏でも『源氏物語』の光源氏の方。帝の寵姫との関係が露見した源氏が、謹慎のため移り住んだ須磨での居住地とされている現光寺だ。

須磨の「詫び住まい」で都を偲び、源氏は泣き暮らすのだけれど、緑の松に可憐な梅が植えられた現光寺は趣あるたたずまい。当時の京の都より水も空気も良さそうだし、「そこまで嘆かなくても…」と思つてから、相手

が千年以上昔の架空の人物だったことを思い出す。

『源氏物語』に思い入れを持って現光寺を訪ねる人は昔から多かったようで、松尾芭蕉もその一人。境内には須磨の秋を詠んだ句碑が残る。ただ、実際に芭蕉がこの地を訪ねたのは春。想像で秋を詠んだものらしい。源氏が見た須磨の名月が見たかったと悔やんでいたというから、思い入れがすごい。

さて、『源氏物語』で源氏は須磨から明石に居を移す。做うわけではないけれど、明石海峡大橋を眺めに、こちらも須磨から明石方面へ移動。

景色の次の観光は

明石海峡大橋の最寄り駅、舞子公園駅ではなく、一つ手前の霞ヶ丘駅で下車。向かうは五色塚古墳。古墳の上に登ることができ、明石海峡大橋と手前を走る電車を一緒に撮影できるという。

天気予報が当たり、雲が迫ってくる中、急いで古墳に駆け上がり、どうにか逃げ切り成功。雲間からの陽射しの下、想像より近い淡路島も含めて、橋と電車を写真に収める。

姫路城に須磨浦山上遊園、現光寺に明石海峡大橋……。天気が下り坂になる前に見たかった景色は見た。それじゃあ次は明石焼か、話題のご当地グルメか。1dayチケットは三宮まで行けるから、神戸スイーツもいいな。グルメに天気は関係なし。時間いっぱい、目いっぱい、お腹いっぱいまで、行きます。



五色塚古墳の上からは、明石海峡大橋と山陽電車が一緒に撮影できる



海に近い駅からの景色は奇麗



光源氏が住んでいた(?)現光寺。かつては「源氏寺」「源光寺」と呼ばれていたとか